



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THESERVICECLUB FOR THEYMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2022年5月号

NO 548

私たちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に存続するからです。

新約聖書 コリントの信徒への手紙二 4章185節

「強調テーマって…」

吉田 明弘

「野川下りシリーズ」第2回 爽緑の小金井・三鷹



東京西クラブのブリテンには、1995年から区が示したその月の“強調テーマ”を載せています。

ブリテンの企画と原稿集めは、3人交代で、私もやらせていただいています。でも毎回気が重いのは巻頭に書く文、そう、これです。

どうしても強調テーマをとりあげることにはなりますが、なかなか書き出せないのです。

古くからのテーマについては、言葉の意味などは、クラブでは、皆知っています。自慢になりませんが一番新しいメンバーでも10年選手ですから。そういう人たちと共感し、刺激できる新鮮な切り口を見つけられないのです。

最近、新しい強調テーマが、どんどん生まれてきました。「ブランディング」、「TW22」、「2022年に向けて」、「Go STEP」、「ヒストリアン」、「PWA legacy」、「ヒールザワールド」、「Week4Waste」、「グリーンプロ

ジェクト」、「100周年記念」、「YMCA リエゾン」、「評価」などにやりました。

またテーマが3つもある月があります。これでは“強調”になりません。巻頭言が「三題噺」になってしまいます。ブリテンに載せると、例会でお客様に質問されることもあります。10年選手は知りませんでは済みません。

そうか、テーマをブリテンに掲げなければ良いのだ。テーマを入れたカゴを持っていて、自分が1つ選ばば良いんだ。

私が尊敬する故佐藤潤太さんは、学生時代に友人だったYMCA主事に入会を勧められたそうです。「どんな会だ」と尋ねたら、ブリテンを渡され、読んで「友愛、奉仕というのはわかるが、切手収集というのは何をやるんだ」と聴いたら、「そんなことは知らなくてもいい」と言われたそうです。

私も、そう言いたいのです。

3月に再開したWHO（ウォーキング・ホリデー・オギクボ）は4月には、野川の国分寺市にある源流を54人で歩きました。5月は、やや川幅の広がった川辺の路を武蔵小金井から、三鷹に進みます。約2年間の空白は大きく、準備面、実行面でもペースがつかめません。コロナ、体方面を含めて、慎重に実施し、新しいスタッフを加えていきたいと願っています。

5月は、平坦なコースです。ぜひご参加ください。詳しい案内はp4をご覧ください。

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

4月の記録		ニコニコ	円
在籍者数	12人	メネット	1人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	160円
出席者数	10人	コメント	1人
		ファン残高	113,468円
メーカー	1人	ビジター	3人
		ホテ校ファンド	26,240円
出席率	100%	ゲスト	4人
		ホテ校残高	66,550円
内Zoom参加	0人	出席者合計	18人
		WHO参加者	54人

5月例会のご案内

強調テーマ：ワイズ 100 周年

**Roll Back Malaria(マラリア撲滅)
Brotherhood Fund**

今月の例会卓話は、氷室幸夫さんをお招きしました。氷室さんは法律関係のお仕事をされていますが、今回は、歌舞伎の有名な演目（歌舞伎十八番）の一つであり、また、アナウンサーや役者、声優等が滑舌訓練の為早口朗読する“外郎売(ういろうり)”について伺います。

江戸時代に二代目市川團十郎が喉の調子が悪い時に、当時万能薬として知られた薬のういろうの世話になり、そのお礼として歌舞伎の演目として“外郎売(ういろうり)を創作したと言われていません。近年、難聴に悩む人が増えています。しかしこれは聞こえない人だけの責任ではなく、話す側の発声にも問題があるようです。最後に舞台俳優でもある氷室さんに、外郎売にまつわるお話しと、明確な発声につながり、健康にもつながる外郎売の朗読を指導いただこうと思います。

日時：5月19日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並 03-5335-7318

担当：B班（吉田、石井、高嶋）

受付 石井 元子
司会 高嶋美知子

開会点鐘 鳥越 成代会長
聖句朗読・祈祷 吉田 明弘
ワイズソング ー 同
ゲストとビジター紹介 鳥越 成代会長
食事

卓話 「小田原の外郎売りと発声法」

氷室 幸夫さん

HAPPY BIRTHDAY

クラブのメンバー、パートナーに該当者はいません。4月生まれに入会してもらいましょう。

諸報告

YMCA 報告

横山 弥利

ニコニコ

ー 同

閉会点鐘

鳥越 成代会長

— 4月事務会報告 —

日時：4月28日(木)

17:00~19:00

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、河原崎、篠原、

高嶋、本川、村野、吉田

<報告事項>

- ①会計報告を承認した。
- ②あずさ部第3回評議会（長野）には7人（その後6人に変更）が参加する。
- ③4月例会は予定通り行なった。卓話者から後日、高評価をいただいた。音響機器の扱いに一工夫が必要との意見があった。
- ④4月のWHOの参加者は54人、新参加者は9人だった、現在の受付スタッフ2人では対応が難しく、補充が必要である。

<協議事項—例会関係>

①5月例会は予定通り行なう。

②6月例会

担当：C班（神谷、河原崎、
篠原、横山）

卓話はなし、クラブ総会、役員

交代式、ホテル学校留学生の奨学金贈呈式を行なう。

奨学金授与方法、受給学生に対する例会の説明などを担当主事と事前に打ち合わせる。

③7月例会

担当：A班（大野、本川、村野）
2年前、コロナのため、クラブ創立45周年記念例会は行えなかったの、内輪の節目の会とする。

卓話は、花輪豊子さんをお願いする方向で進める。

<協議事項—例会以外>

①7月16日（土）、クラブとしてホストを務める来年度第1回あずさ部評議会については、会場は山手センターとして予約を申し込む。

会食・懇親会については、都電の車両を会場とする案が出て、問い合わせたが、収容人数、乗降駅などで難しいため断念し他の方法を検討することにした。概要は6月中旬までには、

卓話者紹介

氷室 幸夫(ひむろ・ゆきお)さん

福岡県出身。慶応義塾大学法学部を卒業後、George Washington Universityを卒業。法務の専門家として、ブリヂストン、三菱電機、NHKなどの国内外の契約交渉、海外契約の交渉業務に携わる。現在も主婦の友社から業務受託している。

一時、ヨットに熱中したが、観劇趣味が昂じて、57歳で演劇研修所に入所し、シニア役者として現在に至る。年2回ほど演劇舞台に出演している。今年も4月に公演を終えたばかり。

あずさ部長に報告する必要がある、5月事務会までには、計画をまとめる。

(書記・本川悦子)



マスコミも注目するタウン誌の編集を語る大沢稔さん、美保子さんの例会卓話

タウン誌編集40年を語る －4月例会報告－

4月例会は久しぶりに山手YMCAで、4階のホテル学校の教室を会場として行われた。

スピーカーは府中市在住の大沢稔さん、美保子さん夫妻。お二人で私塾エミール学院を経営し、40年にわたって季刊タウン誌「ふちゅうファミリープラザ」を発行されている。『町の変遷を見つめて40年』と題して話された。

タウン誌の編集では、まず見やすさがいのちで、小見出しが力を発揮する。次に正確さが求められ、校正力が必要となる。記事集めについては、ジャーナリストの家系の稔さんと、銀行で調査部の仕事をした経験と保護司でもある美保子さんのネットワークが活かされて困ることはないと言われる。

発行については、創刊時から地元の30数店舗（現在18）がスポンサーとして40年にわたり応援してくださっているため、無料で6,000部を発行している。スポンサーには心から感謝している。配布についても新聞の折り込みに入れてもらい府中市の西部地域を中心に無料でポスティングしている。市内の全文化センター、図書館などの施設にも置いている。

人気連載の「秘湯の旅」については、現在100回の区切りとして

冊子にまとめた。まだ続ける予定。その他、思い出の記事の数々を紹介された。

吉田明弘さんの案内で、他クラブのブリテン担当の方や編集に関わる方が参加して下さって賑やかな例会となった。（村野絢子）出席者：＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、村野、横山、吉田、＜メネット＞神谷、＜ゲスト＞大沢稔、大沢美保子、恒石浩志、＜ビジター＞菺渕光彦（東京サンライズ）、久保田貞視（東京八王子）、小原史奈子（東京たんぼぼ）、村野繁（東京世田谷）、＜メイキャップ＞本川（4月事務会）

おめでとう。待ってました。 甲府やまなみクラブ設立

待ちに待った新クラブが誕生します。甲府クラブが3年にわたって熱い願いをもって準備を重ねてきた甲府やまなみクラブが、誕生します。

設立総会は6月11日（土）18:00～19:00、甲府駅北口、よっちゃば広場の藤村記念館で行なわれます。コロナのため参加人数を制限せざるを得ないということで、クラブ代表が1人参加して祝意を伝えます。チャーターナイトには制限が緩和参加できれば、新クラブお祝いにいきましょう。

■新2年生は2月から就職戦線がスタート！ コロナ後の回復見込みや新規ホテルの開業予定も多くあり、企業の採用意欲は高く求人数も増加しています。現在99人中、既に46人（46.5%）が内定。それぞれに合った就職先にたどり着けるよう、また、社会人としていい形でスタートが切れるように、スタッフ一同しっかりサポートしていきます。

■3月1～9日、東陽町コミュニティセンターでは、第7回平和展として「東京大空襲体験絵画展」を開催しました。東陽町センターロビーにすみだ郷土資料館から借用した東京大空襲の体験絵画100点を展示した他、体験談のビデオも上映。期間中、約400人が来場しました。

■4月14日に「第31回チャリティーゴルフ大会」がPGM総成ゴルフクラブで開催され、23グループ、89人が参加しました。感染症拡大防止のため、表彰式や懇親会は見送り、別途表彰記念品や参加賞を参加者に贈呈しました。益金約400,000円は、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンド、不登校の子ども支援、災害復興支援に用いられます。チャリティーゴルフ実行委員会が準備と運営を担い、多くの企業や個人から協賛をいただきました。

■安心して過ごせる居場所作りとしてスタートした「オープンスペースliby」は、4月1日より、杉並区西荻北から、東京YMCA南コミュニティセンター（世田谷区宮坂）内に移転しました。

■西東京コミュニティセンターで行っていた放課後等デイサービス「PIT国立」、及び知的障がい者支援活動「あおぞら・つばさの会」、「シャベルズ・いづみの会」は、2022年3月をもって活動を終了。今後の展開については、会員や関係者等と意見交換しながら検討を進めていきます。

（担当主事 横山弥利）



左写真：小金井・貫井神社の塗り立ての橋とマスクの54人。
上写真：日立製作所の森。標識のあたりから源流が流出し野川にそそぐ。

WHO野川下り第2回案内 爽緑の野川の野原、林

野川下り2回目は、川幅がやや広くなった野川の兩岸を歩きます。ほとんどが、舗装された沿道と川辺の道を選んで歩けます。木々の花も草花も多彩です。

都立の武蔵野公園は樹林、野川公園は広い芝生の、いずれも戦後生まれの近代的な開放自然公園。自然観察園は、武蔵野の野草、野鳥の宝庫です。

期 日：2022年5月28日（土）
コース：JR 武蔵小金井駅—貫井大橋—都立武蔵野公園（くじら山）—二枚橋—都立武蔵野公園（くじら山）—野川公園（自然観察園・湧き水ひろば）—龍源寺（近藤勇の墓）—バス停・龍源寺前—<バス>—JR 三鷹駅

集合・出発：JR 武蔵小金井駅南口
10：00（厳守）

解 散：JR 三鷹駅 14：30頃
携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具、4月例会でお渡したパンフレット『野川マップ』

参加費：300円。初参加の方は、名札代200円。（名札は必ず着用）。

WHO川下り第1回 国分寺、小金井の源泉へ

「野川下り」シリーズがスタートしました。

快晴の4月23日、JR西国分寺駅に集合したのは、54人。初参

加9人。休み期間中にも情報が行き交っていたのでしょうか。

まず訪ねた東福寺は葬儀があるとのことで、駐車場でミーティング。

恋ヶ窪用水に沿います。これは玉川上水から1657（明暦3）年に分水し、野川の源泉のひとつである姿見の池に注いでいます。見逃しそうな小川ですが、川底まで明るい陽光が差し込み小さな魚たちが動き回っていました。池の湧き水は確認できませんでした。何かの事情で埋め立てられ、地図から一時消えていましたが、復元したそうで、東京都の名湧き水57選に指定されています。池にまつわる悲恋の伝説もあります。

東へ進むと、大きな樹木の森。ここは20万㎡という日立製作所中央研究所の敷地です。昭和17年に実業家の別荘を買って、森を守り、複数ある湧き水を大池に集め、これが、野川の主要水源のひとつとなっています。今は年に1度の公開は中止されています。代わりにゆかりのある樋口順英さんに、水が構外に流出する地点で解説をお願いしました。

JR 国分寺駅付近で線路を渡ります。一帯は南向きの斜面で国分寺崖線、いわゆるハケです。

典型的な地形が判かるのが、国の名勝に指定されて今年が10年目の殿ヶ谷戸庭園です。園内のベンチや休憩所で54人の昼食は無理。隣接する児童公園で11時から昼食をとりました。食後、入園

し自由散策。この庭園は大正初期に実業家が創設し、昭和4年に三菱屋の所有となり、築造整備された回遊式林泉庭園。武蔵野台地傾斜地にあり国分寺崖線の崖地と崖下から水が湧出しています。住民の自然保存の運動で東京都が買い上げ、都が管理しています。

タケノコが盛りの竹林や岩組みの水の流れに涼を感じつつ時を過ごしました。全員が最後まで歩けるということで、長い坂を下り鞍尾根橋から念願の野川につきました。15人くらい減ると思っていましたが。

湧水のある新次郎池や緑の回廊と呼ばれる見どころもある東京経済大学のキャンパスも公開中止のためパス。沿道の花々、モミジなどの若葉の緑の初々しさに目を奪われつつ、最終目的地の湧き水で名高い貫井神社に到着。境内改装中で赤く塗り上がった欄干の橋を入れて記念撮影。

思い返せば、関喜一郎さんは「神田川下り」以来のカメラマンです。武蔵小金井駅までまだまだ歩けそうでしたが、小金井街道・貫井大橋で解散しました。

ワイズ関係の参加は、石井・吉田（東京西）、中澤正子・藤江喜美子（東京たんぽぽ）、藤井寛敏（東京江東）、樋口順英（東京グリーン）、関喜一郎（元石巻広域）。

先月の参加者リストから欠落、河原崎・高嶋（東京西）

（吉田明弘）

☆☆☆ インタビュー ☆105☆
後藤 明久さんに聴く

富士五湖クラブ

* * *



—後藤さんのお生まれは。

「生まれも育ちも山梨県都留郡忍野村です。1961年、当時の村でも珍しく、8人兄弟の上から6番目の五男坊で内弁慶な子だったようです。祖父祖母、父母と12人の大家族でした」

—12人ですか。ウチのクラブと同じだ。小学校で好きな学科は。

「歴史が大好きでした」

—中学、高校でのクラブ活動は。

「中学では吹奏楽部に入り、少し活動しましたが、やめてしまい、“帰宅”部になりました。高校は富士河口湖高校の一期生でした。片道12km、標高差300mを自転車通学。往きは40分、帰りは1時間20分かかりました」

—早くから何になりたいと進路を決めていましたか。

「特別したいこともなく、高校卒業後は、なんとなく家業のプラスチック製造業を手伝いました。配送のトラックを運転していたこともあり、これで後に運送業を始めた感じでした。20歳頃は青年団活動に熱心でした。今でも内野神楽保存会に所属して、獅子舞などをやっています。伝統文化や風習が残っているのです」

—後藤さんは、「青年の船」に乗られたそうですね。

「24歳の時に『第8回日中友好青年の翼』で飛行機で上海、西安、北京などを巡りました。中曽根首相が靖国神社参拝をして、中国が猛反発して、日本車焼き討ちなどがあった時で、ホテルからの外出

は禁止されましたが、私たちは表敬訪問でしたから各地で大歓迎されました。参加した若者は30人。私は村からの推薦、メンバーの小池亦彦さんも河口湖から来ていました。選考委員長は、山梨青少年育成会議議長で山梨YMCA総主事の大澤英二さんでした。山中湖の向こう側に東京YMCAのキャンプ場があるのは知っていましたが、何をするとするかは、知りませんでした」

—お仕事の輸送業は。

「27歳の夏に赤帽車1台で創業して、年末に結婚、10年後にトラック輸送会社も始めて現在に至っています。忍野村の特産のトウモロコシの輸送も引き受け、今でもやっています。鮮度が命ですから、最盛期の収穫出荷は毎日朝3時半からなんです」

—後藤さんをワイズに誘ったのは大澤英二さんでしょう。

「2002年の夏、大澤さんから何度かお手紙をもらい、富士五湖にワイズメンズクラブを作りたいとのことでした。妻のアッコ（昭子）さんがYMCA山中湖センターに勤めていたこともあり、多少の縁はありましたが、ワイズは知りませんでした。あまり熱心なので富士レークホテルの準備例会に出席し、すでに1年半も準備例会をしていると聞き驚きました。多分アッコさんが入会するのかな、という認識でした。年末に大澤さん、深澤萬民さん、平原貞美さんがわが家に来られました」

—超大物ですね。大澤さんから、何と言って誘われたのですか。

「とにかくやって欲しいの一点張りだった気がします。どうしたものかと思案しましたが、『とにかく形ができれば甲府クラブから転籍者を出すから』と」

—クラブの望月勉さんは「クラブでYMCAを知っていたのは後藤さんだけだった」と言っています。

「むしろパートナーのアッコが知っていました」

—富士五湖のクラブの現在のメン

バーは、生活圏がかなり離れていますが、どういうところで連帯しているのですか。

「当初は例会出席に1時間かかるという方もいました。今は更にさらに範囲が広がっています。通常例会は、原則ズームを利用したハイブリッド方式です。急に用事があっても参加できます。一方、とにかく集まって楽しい事をやろう！ どうせやるなら他でやってないことをやろう！ とメリハリをつけています。障がい者のフライングディスク大会は、最初は、メンバーから『障がい者でもできる競技があり、富士五湖地域では、披露する機会がないので、やりたい』という話が出て、最初は、他のイベントのお手伝いでやったところ、好評だったので、事業として自分たちで主催しようということになったのです。年1回の富士山例会も、どうせやるなら、他で出来ない日本一高いところだと、富士山五合目の山小屋でやっているのです」。

—面白いやり方ですね。話が変わりますが、アッコさんとの結婚披露宴は大変だったそうですね。

「200人くらい集まってくれて、昼からの披露宴が夕飯時までかかりました。新郎として、最後は見送りに立っていたか、どうかも記憶なく、目が覚めたのは夜中12時頃、ホテルの部屋でした。新婦は同級生の二次会などに付き合っ

て帰ってきていました」

—よほどうれしかったのですか。

「ただの酔っぱらい状態でした」

—今、ワイズに入って良かったと思うことは。

「楽しい仲間と出会えたことですね。評議会、部会、東西区大会などに参加して、多くのワイズとの交流が糧となっている気がします。出会いと交流をさらに進めていきたいですね」

—座右の銘というか、勝負どころで浮かぶ言葉がありますか。

「『明日は明日の風が吹く』」

—有難うございました。(吉田明弘)

思い出を辿って⑤ ヘットキャンプ先生

村野絢子

日本の「いのちの電話」の生みの親はドイツ人女性のルツ・ヘットキャンプ宣教師です。

1933年生れのヘットキャンプ先生は10歳の時、空襲で一家もろとも瓦礫にうずめられました。一人生かされた自分の命は自分のものではない。そう心に決めて歩み続けた道が遠い日本であり、生活のために自分の身を売る女性たちの救いのために役立ちたいという事でした。1960年に来日し、苦勞して覚えた日本語でどうしたらその女性たちと心をかよわす友になれるのか不安の日々が続きました。夜の雑踏に拡声器からウィーン少年合唱団の歌う

「きよしこの夜」を聞き、われに返った先生は、あの命が救われたとき“自分の命は、生きるのも死ぬのも神のみ手の中にある”のだという思いでした。これが、希望を失い、自ら死を選ぼうという人たちのせめて何かの助けになるろうと始まったボランティア運動、日本の「いのちの電話」の発端です。クリスチャンの医師・弁護士・看護婦・訓練関係者（牧師など）の協力が得られ、カウンセラー（相談員）の訓練が始まり、1971年「いのちの電話」がスタートしました。

家の近くの、ある施設長の若いヘットキャンプ先生は、ドイツからのお客様が、出したお皿のリングの大きさに驚かれ「丸ごとのりんごを見たい」と言われ「ドイツのリングは小さいの」と残念がったこと、「食器洗いはいい洗剤を使

っているので流し洗いはしないでください」と注意され、水を大切にされたことなどを思い出します。

私の属している和泉教会からは中山月夫牧師、赤池陽医師、村井洋子さんと私は1985年3月（18期）認定の相談員として関わりました。私はその後、教師の仕事に就きましたが、この訓練で学んだことが多くの場面で活かせて感謝しています。



写真は2006年10月いのちの電話3周年記念「ヘットキャンプ先生をお招きする会」でのスナップ

絵を描くこと

河原崎和美

思えば小さい頃から絵を描くことが好きでした。小学校6年生の時に神田川に沿った建物を描いた絵が区の展覧会で賞をもらい、その時に子供心ながら本気で絵描きになりたいと思いました。

母に相談したところ、女の絵描きなんて貧乏になるだけだ、絶対にダメだと言われそんなものと諦め、何となくたまに描く程度で大人になりました。

結婚して昭和42年に夫の転勤に伴い岡山へ移住しました。その頃の岡山はとても閉鎖的で変な文化が根付いており、小学校の保護者会には着物を着て、夏に袖無しを着ればみっともないと言われ、なるべく目立たないように大人しく暮らすしかありませんでした。

娘の小学校の保護者会で絵画教室があり、元々絵が好きで大人しく趣味に没頭できると思い参加しました。そして肅々と絵を描き続け、あるとき上野の展覧会に

出品して飾られ、東京にいる両親が喜んで見に行ってくれたことが嬉しかったのを覚えています。

7年間を岡山で暮らし、その後東京に戻り、東京ではゴルフやテニス、ママさんバレーなど身体を動かすことに夢中になり、すっかり絵のことは忘れていました。

それから何十年。ひよんなことから、どこにでも描けるトールペイントに出会い、ティッシュケースや傘や小物入れなど、いろいろな物を飾り楽しんでます。このコロナ禍でマスクが当たり前になり、ふとマスクにも描けるのではないかと、思い立ち、マスクにお花を描いたところそれを見た友人が大変褒めてくださり、今では友人知人に頼まれ描いて差し上げています。娘のお友達からも是非欲しいと言われせつせと描き、コロナ禍で自粛生活の中でも楽しく充実した毎日を送ることができました。

やはり何歳になっても、楽しめる趣味があるのは毎日の活力になるのだなとしみじみと感じています。



お久しぶり！ 山田さんご夫妻

杉並区内の有料老人ホームに入居している山田利三郎さんの奥様・紀子さんが、2年半ぶりに外出を許されたので女性3人が喫茶店でお会いしました。上は昨年94歳を祝った写真で、園内でお元気に活動されているそうです。

編集後記

「ない袖は触れない」と言いますが、ブリテンもいくらイキがなくても、材料がなければ、どうしようもありません。幸い東日本区は、区大会の開催、甲府やまなみクラブの誕生と、明るいニュースが入ってきました。今月も原稿、写真と、多くの方に、応援していただきました。感謝いたします。(AY)